

化学環境システム論

2 units 2nd-year(2nd semester)

Hiroshi Yamamoto · ASSOCIATE PROFESSOR / DEPARTMENT OF CIVIL AND ENVIRONMENTAL STUDIES, Tatsuo Hamano · PROFESSOR / DEPARTMENT OF CIVIL AND ENVIRONMENTAL STUDIES

Target) 化学物質等による環境リスクを低減するための様々な方策について学ぶ。

Outline) 環境への危険性やどうしても避けたい環境影響である「環境リスク」を緩和しようとする、別の問題が生じるという「リスクトレードオフ」が起きる。総合的に環境への影響緩和を実現するためには、個々の問題を定量的に評価した上で、それぞれの最適なバランスを考えてリスクマネジメントおよびリスクコミュニケーションをはかる必要がある。本講義ではそのような環境リスクの問題解決を行うためのキーとなる、化学物質のリスク評価やリスク低減手法について講述し、リスクコミュニケーションの在り方についても学ぶ。

Keyword) 環境リスク, リスク管理, 法規制, リスクコミュニケーション, リスクアセスメント

Fundamental Lecture) “現代化学の世界”(1.0), “化学環境制御論”(1.0)

Relational Lecture) “環境政治学 I”(0.5)

Goal) 環境リスクの回避・低減策の現状について、工学的、科学的など様々な視点から学ぶ

Schedule)

1. シラバスの説明, 環境リスクについて (山本)
2. 水質汚染と規制・基準 (山本)
3. 浄水・下水・廃水処理の現状と課題 (山本)
4. 室内外空気汚染と規制・基準 (山本)
5. 排ガス対策と廃棄物処理・処分の現状と課題 (山本)
6. 化審法と農薬取締法, PRTR, MSDS(山本)
7. 化学物質のリスク評価とリスク管理の現状と課題 (山本)
8. 中間試験 (山本)
9. 農業生態系における環境リスク低減技術 (浜野)
10. 土壌生態系における環境リスク低減技術 (浜野)
11. 沿岸生態系における環境リスク低減技術 (浜野)
12. 河川生態系における環境リスク低減技術 (浜野)
13. 環境リスクを計算する (浜野)
14. リスクコミュニケーション (浜野)
15. 期末試験 (浜野)
16. 総括授業 (浜野)

Evaluation Criteria) 浜野担当分 50%, 山本担当分 50%(宿題レポート 20%, 出

席 10%, 中間試験 20%)

Re-evaluation) なし

Textbook)

- ◇ 新版環境工学-持続可能な社会とその創造のために (2007), 住友恒ら, 理工図書
- ◇ 化学環境学 (2007), 御園生誠, 裳華房

Contents) <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218474>

Contact)

- ⇒ Yamamoto (総合科学部 3 号館 2N07, 7618, hiroshi@ias.tokushima-u.ac.jp)
MAIL
- ⇒ Hamano (3N04, +81-88-656-7271, hamanot@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL
(Office Hour: 12:00-12:30, Tuesday)